平成２９年度第５回「知事と一緒に生き活きトーク」の発言要旨

１　テーマ：「交流の場づくりで地域を活性化」
２　日　時：平成２９年１０月１６日（月）
３　場　所：瀬戸内市裳掛コミュニティセンター大会議室（瀬戸内市邑久町虫明２）
４　参加者：交流の場づくりを通じて、地域づくりに関わっている方々：７名
５　知事挨拶

本日ご参加の皆様は、それぞれ素晴らしいお仕事をされて地域を活性化してくださっている。知事となって５年が終わったところだが、その途中でお会いした方や、ぜひお話を伺いたい方などがおられ、楽しみにしている。交流の場づくりで一番大事にしていること、人を引き付ける工夫・努力、この機会に行政と取り組みたいこと、困っていることなど、お話を伺いたい。

６　発言内容

【活動紹介】

・少子化や高齢化でむらが疲弊している姿を見て、将来に期待を寄せることができる地区を目指し再生プロジェクトを立ち上げた。移住相談会へは地区としてブースを出展、移住者１２組につながった。また岡山大学と連携しており、学生が地区の行事へ参加するなど、若い力が地区を元気にしてくれている。
・１０年ほど前から「だっぴ」の活動を開始した。最初は大学生と大人とが、働き方や社会の在り方などについて語り合う場を設けた。現在は、中学校の授業の一環として、中学生と大人、その仲介役の大学生とで話し合う場を設けている。中学生を中心に会話をすることにより、三者それぞれに新しい気付きがある。
・４０代の時に会社を辞め、農業に従事し、その後、地元にあった茶畑再生の取組として紅茶の製造を始め、５年ほど前から自治体、農協、地元の人、学生などと協働で茶畑荒廃茶園復活プロジェクトを立ち上げた。地域の茶畑でできる紅茶を通じて様々な人との交流をこれからも続けていきたい。
・山の中に集落があり少子化や高齢化が進んでおり、地域資源を活用した交流事業として、春には自生しているシャクナゲ、秋には紅葉をメインとした祭りを開催している。地元の特産品の販売などもあり、交流人口を増やすことにより地元の活性化に取り組んでいる。現在では、年間５千人の来場者がある。
・最初は綿の栽培、綿繰り体験、反物の販売を行っていたが、作州絣の保存、技術の伝承等のため４年間、機織りの勉強に通い技術を習得してからは、機織り人講座を始め、県南からも受講生が通ってくる。「作州絣」という言葉が消えないよう、後世に残していきたい。
・地域資源や文化の継承のため地元の人たちでプロジェクトを立ち上げ部会に分かれて活動しており、その部会の一つが、昔、村で評判だったお豆腐屋さんに着目し、女性ばかりで豆腐と油揚げの復活を目指して、２年前にレストランを開店した。地元食材を使った定食が観光客に人気だ。これからも交流人口を増やしていきたい。

・岡山が好きで民間企業を退職して、Ｕターンした。農業大学校で業としての農業を知り、夫とともに新規就農した。農林水産省の農業女子プロジェクトに参加し、中央だけの取組だけでなく地方でもと、県内の女性農業者で明るく楽しく儲かる農業を目標に活動中だ。これからもメンバーを増やしていきたい。

【活動の中で一番大切にしていること、工夫、苦労など】

・高齢化率が高いこの地区をどう維持していくかが大きな課題だ。若い人に地区に入ってきてもらいたい。地区にある伝統文化の継承・復活などの活動を通じて、移住者や大学生など幅広く様々な人とのつながりや触れ合いを心掛けている。
・人は年齢や立場で関係性が縛られやすいため、フラットに安心して話せる環境づくりを心掛けている。中学生と大人をつなげる役の大学生には、誰かのためだけにやるのではなく、半分は自分のためにやるという意識をもって取り組むよう話をしている。誰かと自分の笑顔を思い浮かべながら実践するよう、打合せで何度も話している。
・国内のお茶の産地では、それぞれの土地の良さと一緒に国産紅茶をアピール、県内外の様々なところに出向いて試飲会を行っている。紅茶を通じて出会う様々な人からの生の声は、紅茶はもちろん、地元の可能性も知ることができる。
・山の中の自然を生かした観光をＰＲ、リピーターが増えたことや、加工品の生産者の高齢化などで、特産品の生産が追いつかないことがある。また、山の中に自生するシャクナゲの景観を保つことなどが課題である。
・空洞化する町の中で機織りの「トントン」の音に引かれて来た人が、体験し癒される場でありたいが、それだけでは運営はできず、ジーンズや真田紐などとのコラボ商品を開発し販売促進も行っている。
・メディアの力は大きく、話題にしてもらうために、６次産業化、豆腐づくり体験、学生との共同開発でジェラートや揚げバーガーなど、新しいことを考え続けている。
・生鮮品の販売はもともとのルートがあり、女性が新規に販売先を開拓するには、配送のことも考えると工夫が必要だ。メンバーの個性を生かした役割で、お互いに補い合いながら活動している。自分たちがブランド化することで岡山が盛り上がり農業も盛り上がると思っている。

【行政に対する要望等】

・ボランティアのような活動であるため資金繰りに苦労する。ソフトの補助金はあるが草刈機の購入などハードの補助金が少なく、特に耕作放棄地対策への制度を整備してほしい。
・シャクナゲの景観を守るため、お祭り開催時には募金箱を設置しているが集まりが悪く、伐採への資金と労働力が必要だ。
・東京のアンテナショップに出展したりイベントに参加したりしているが、特定の商品がずっと置かれている。岡山のいいものは他にもあるので、手続きを簡略化し、多くの商品を紹介できる場にしてほしい。また、若い人が自ら作った商品で、気軽にチャレンジできる場でもあってほしい。

・自治体からの問い合わせや依頼が増え、スタッフがフルに働いている状況だ。活動経費のほとんどが人件費だが、大人と未成年が同じテーマで一緒に話し合う場を設けるこの活動は、人脈づくりになり、将来的に人材が残ることになるので、企業へ寄附や協賛を呼びかけている。子どもたちと地域の大人との関係を紡いだ後に、本日の参加者皆さんが行っているような活動につながっていくのではないかと思う。これまではそういった教育がなかったため、関係性がつくれるようにプログラム化して行っている。将来的にもキャリアを考える上で、中学生と地域の多世代との交流というものを教育に組み込み、岡山で政策化していける流れがあるといいと思う。

【知事のまとめ】

・皆さんの活動は、とてもうまくいっており、アイディアや工夫もそれぞれ違うと感じた。

・「誰かのために」だけでなく「自分のために」と、自分も楽しみながらの前向きな活動は、継続もでき、人を引き付ける魅力もある。そして、様々な人に受け入れられるということは、努力が認められているということでもある。

・皆さんの交流の場に、これからもたくさんの人に来ていただき、また何か新しいことができ、そして地域が盛り上がっていけばいいと思う。皆さんがこれからも、より良い活動ができ、地域がより活性化するよう、県も工夫をしながら、できるだけ後押しをしていきたい。

－以上－